

性の多様性を理解するために

—教職員用ハンドブック—



はじめに

性同一性障がいをはじめとする性的マイノリティに該当する人は、約 8.0 パーセントいるという調査結果^(注)があります。これは、成人を対象とした調査結果ですが、35 人学級とすると、性同一性障がいや性的指向・性自認に係る児童生徒が 1 クラスに 2～3 人いることとなります。性的マイノリティの子どもたちは、生きづらさを感じ、一人で思い悩んでいる可能性があります。また、いじめやからかいの対象になりやすい現状があり、教職員の正しい理解が求められています。

文部科学省は、平成 27 年、「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」の通知で、悩みや不安を受け止める必要性が、性同一性障がいに係る児童生徒だけでなく、いわゆる「性的マイノリティ」とされる児童生徒全般に共通するものであることを示しました。また、平成 28 年には「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」パンフレットを発行し、教職員の適切な理解を促進することが必要であるとしています。

徳島県教育委員会では、このような状況を踏まえ、性的マイノリティの問題を学校において早急に対応しなければならない課題と捉え、性の多様性についての理解を促進し、多様性を認め合う人権教育を進めていくことが必要であると考え、本資料を作成しました。すべての子どもの人権が尊重される学校づくりを進めるために、御活用ください。

(注)株式会社 L G B T 総合研究所(博報堂 D Y ホールディングス)2016年6月1日発表の調査結果より

目次

1 性の多様性	1
(1)性的マイノリティとは	
(2)性の多様性について	
(3)性的マイノリティに関する現状	
2 県内の性的マイノリティの人の声	6
3 学校でできること	8
(1)教職員としての姿勢	
(2)学校生活での支援	
(3)保護者への理解を促進するために	
(4)今日からやってみましょう	
4 指導用資料	14
5 性の多様性を理解するための用語一覧	27

1 性の多様性

「性的マイノリティ」への関心が高まっています。「性」について、皆さんはどのようにお考えですか。自分の性をどのように認識するかは人それぞれ違います。

はじめに、「性的マイノリティ」を含む「性」の多様性について考えてみましょう。

(1) 性的マイノリティとは

「性的マイノリティ」は「セクシュアルマイノリティ」（略して「セクマイ」ということもある）とも言われ、性的な少数者という意味です。性的マイノリティの代表的な性の頭文字を合わせて、日本では、「LGBT」という言葉がよく使われています。

「L」はレズビアン（女性で女性が好きな人）、「G」はゲイ（男性で男性が好きな人）、「B」はバイセクシュアル（男性と女性両方好きになる人）、「T」はトランスジェンダー（体と心の性に違和感がある人）です。

しかし、この4文字だけではすべてを表すことができません。ほかにも「Q」「A」「X」など様々あります。「Q」はクエスチョニング（心の性や好きになる性が決められない人）、「A」はアセクシュアル（恋愛感情をもたない人）、「X」はエックスジェンダー（自分を男女どちらとも思わない人、あるいはどちらでもあると思う人）です。

国連人権委員会等では、SOGI（ソジ）（Sexual Orientation and Gender Identity 性的指向や性自認の略）という用語がよく使われています。これは、少数者だけを特別な存在として捉えるのではなく、すべての人にそれぞれ性的指向と性自認があり、それは多様であるという考え方に基づいています。異性愛の人も含め、すべての人をSOGIで表現することができます。

大切なことは、どのような性であっても、自分らしく社会生活が送れることです。自分らしさを大切にするとともに、周りの人が「その人らしさ」を認め合い、大切にすることで、すべての人にとって過ごしやすい学校や社会を築くことができます。

次の図は、体の性、心の性、好きになる性を、女性と男性の2つで分かりやすく表しています。2ページでは、性の多様性について4つの要素でより詳しく説明していきます。

体の性	女								男							
心の性	女				男 (FTM)				女 (MTF)				男			
	トランスジェンダー (T)															
好きになる性	無	女	女男	男	無	女	女男	男	無	女	女男	男	無	女	女男	男
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	無性愛	レズビアン (L)	バイセクシュアル (B)	異性愛	無性愛	異性愛	バイセクシュアル (B)	ゲイ (G)	無性愛	レズビアン (L)	バイセクシュアル (B)	異性愛	無性愛	異性愛	バイセクシュアル (B)	ゲイ (G)

FTM (Female to Male) …生物学的性が女性で、心身の性を男性へ移行することを望む性別違和をもつ人
 MTF (Male to Female) …生物学的性が男性で、心身の性を女性へ移行することを望む性別違和をもつ人
 ※性的指向については、体の性ではなく、心の性が基準となっています。

(2) 性の多様性について

性の多様性について、ここでは、①体の性、②心の性（性自認）、③表現する性、④好きになる性（性的指向）の4つの要素で考えてみることにします。①体の性は、生まれてきたときに割り当てられた身体の区別による性です。②心の性は、自分の性別をどう認識しているかということです。③表現する性は、言葉づかいや髪型、服装など自分をどのように表現するかという性です。④好きになる性は、恋愛対象として好む性ということです。

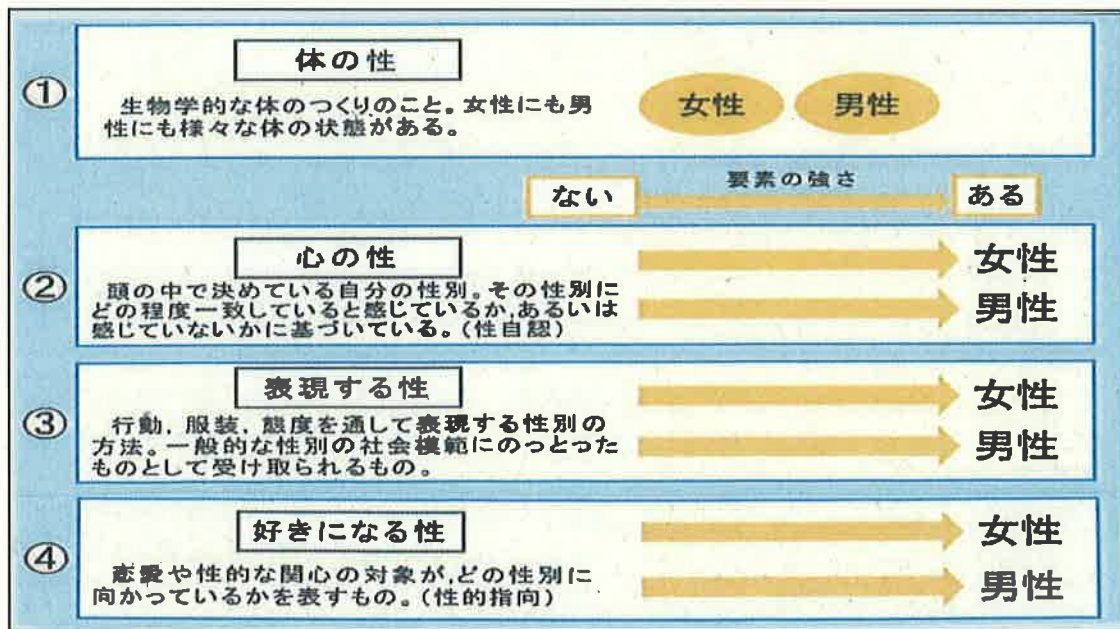
多くの人は体の性と心の性が一致していますが、体の性と心の性が異なる人や一致しない人がいます。例えば「体は男性だけれど、心は女性」「体は女性だけれど、心は男性」「男性と女性の間にいる」「男性でも女性でもない」と感じる人もいます。

また、好きになる性は、異性とは限りません。同性を好きになったり、男性、女性両方を好きになったり、男性女性どちらにも恋愛感情をもたない人もいます。

私たちは多様な性の中のどこかに入っています。性のあり方は、次の図のように表すことができ、それぞれの要素の位置が矢印の上のどのあたりにあるかは一人一人違います。

このように、4つの要素の組み合わせにより、多様な性が存在することがわかります。

〈性の4つの要素〉



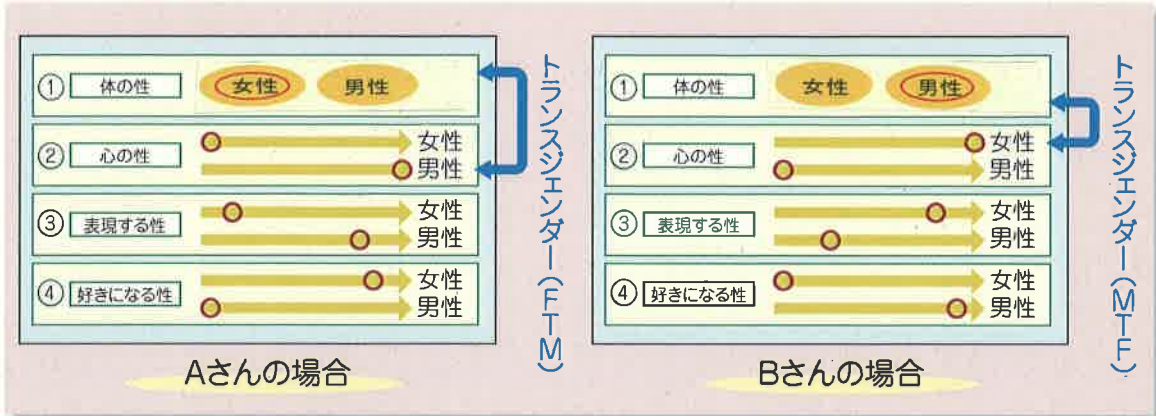
矢印の方向はその性の要素があることを表しています。矢印の反対方向は、その要素がないことを表します。また、矢印の方向へいくほどその要素が強くなります。それぞれの要素について、どちらか一方がある人もいれば、両方の要素がある人、どちらの要素もない人もいます。3ページでは、4つの要素を使って、多様な性の例を示します。

※ これらの4つの要素のほかに、「社会的な性」を含める場合もあります。社会的な性とは、社会や文化が求める男性像や女性像と一致する態度・感情・行動（男らしさや女らしさ）のことをいいます。

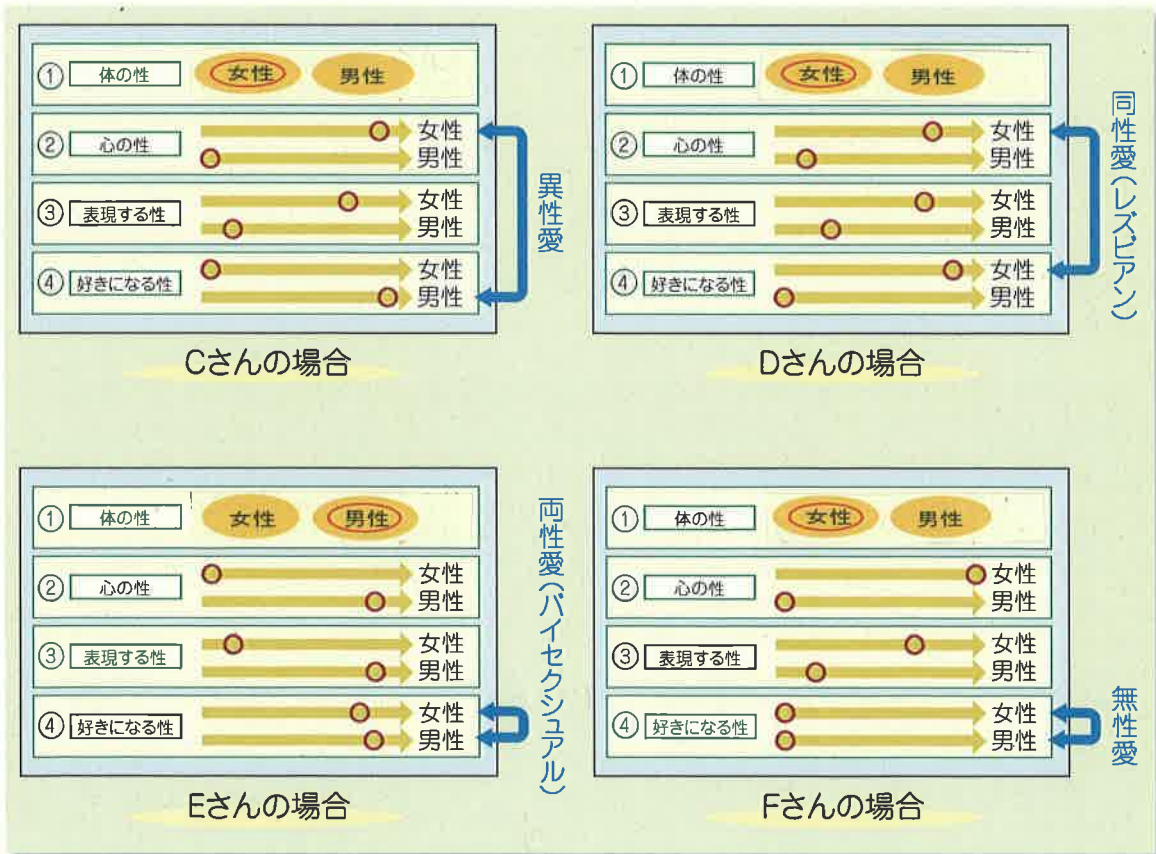
4つの要素の強さで示す多様な性の例

次の6つの図は、多様な性の一つの例を示しています。○の位置は、それぞれの要素の強さを表しており、矢印のどのあたりにあるかは一人一人違います。

〈 性自認についての例 〉

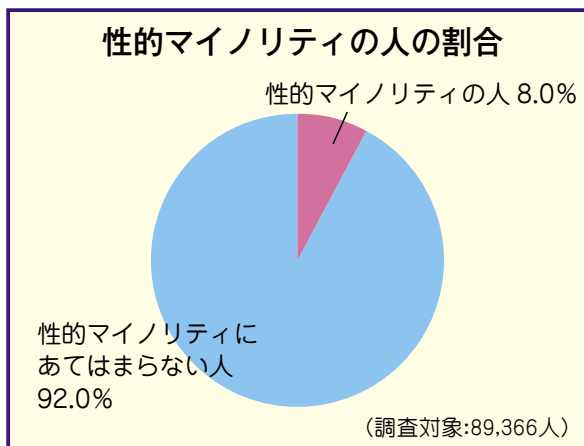


〈 性的指向についての例 〉



(3) 性的マイノリティに関する現状

性的マイノリティの人はどれくらいいるの？

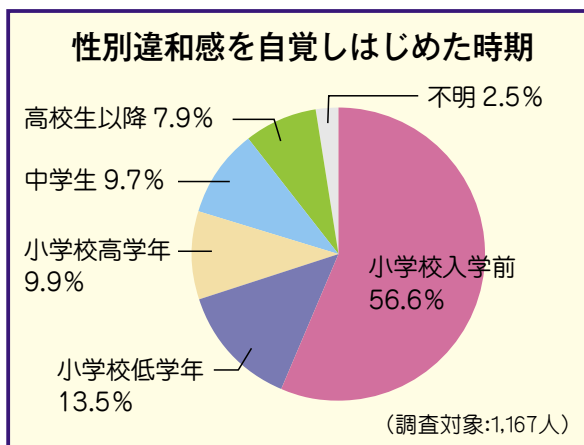


民間の調査によると、性的マイノリティの人は、約8%いるとされています。

これは成人を対象とした調査結果ですが、35人学級とすると、1クラスに2~3人いる割合となります。

株式会社LGBT総合研究所(博報堂DYホールディングス)
2016年6月1日発表の調査結果より

性的マイノリティについて自覚したのはいつから？



トランスジェンダーのうち、性同一性障がいと診断された人の約6割が小学校入学前までに、約9割が中学生までに性別違和感を自覚しています。

中塚幹也(2017)「封じこめられた子ども、その心を聴く:性同一性障害の生徒に向き合う」より
<https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/gid.html>

ゲイであることを自覚した平均年齢



(ゲイ・バイセクシュアル男性有効回答数1,025人)

性的指向について、同性の人が好きだということを、「なんとなく自覚する」のは中学生の頃、「はっきりと自覚する」のは高校生の頃という調査結果があります。

日高庸晴・木村博和・市川誠一(2007)「ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2」思春期におけるライフイベント平均年齢より
<http://www.j-msm.com/report/report02/>

性的マイノリティにおける問題は？

いじめ被害 〈学校生活におけるいじめ被害経験〉

レズビアン女性	47.8%
ゲイ男性	58.5%
バイセクシュアル男性	53.2%
バイセクシュアル女性	54.8%
トランスジェンダー (MTF)	68.0%
トランスジェンダー (FTM)	58.2%
全体	58.2%

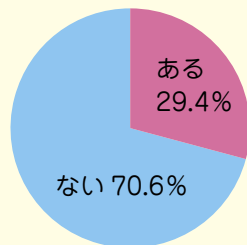
(調査対象:15,064人)

性的マイノリティの約6割の人が、いじめの被害経験があります。

〈いじめ被害生涯経験率〉 日高庸晴(2016)「LGBT当事者の意識調査」より

不登校経験

性別違和感をもつ子どもの不登校の割合



(調査対象:受診者1,158人)

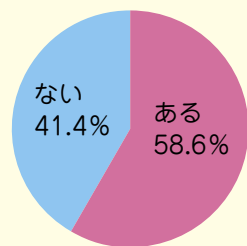
トランスジェンダーのうち、性同一性障がいと診断された人の中で、不登校経験のある人は約3割います。

中塚幹也(2017)「封じこめられた子ども、その心を聴く:性同一性障害の生徒に向き合う」より
<https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/gid.html>

自殺念慮

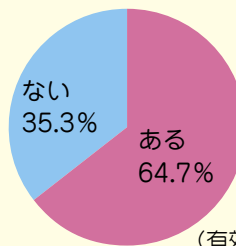
※自殺念慮 (本気で自殺しようと思うこと)

性別違和感をもつ子どもの自殺念慮の割合



(調査対象:受診者1,154人)

ゲイ・バイセクシュアル男性(10代)における自殺念慮の割合



(有効回答数5,731人)

中塚幹也(2017)「封じこめられた子ども、その心を聴く:性同一性障害の生徒に向き合う」より
<https://www.okayama-u.ac.jp/user/mikiya/gid.html>

日高庸晴・木村博和・市川誠一(2007)「ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2」より
<http://www.j-msm.com/report/report02/>

性的指向・性自認が理由で、本気で自殺を考えたことがある人は、約6割います。

性的マイノリティにおける問題は、命に関わる問題です。教職員としては、いかなる差別的発言、からかい、冗談も見逃さないという毅然とした態度で児童生徒、保護者に関わってください。

2 県内の性的マイノリティの人の声

性別違和を感じたのは物心ついたときから。
そこから自分が心の性は男性であることに気付くまで時間がかかった。
20歳の時に、同じ大学の子（FTM）がきっかけでようやく本当の自分に気付いた。
それまでは、なんとなく周りに気を遣いながら自分の性別違和のことを隠していた。

独り言を言う時は幼い頃から自分のことを「俺」。人前では自分のことを「うち」「自分」「こっち」など定まらない言い方をしていた。

本当の自分に気付くには、情報ときっかけがないと難しい。

「性同一性障がい」という言葉は知っていても、なかなか自分のことだとは認められない。世間体や人目を気にしてしまうから。

でも、今は不思議なことに、友達や職場、そして家族にまで、自分の身の回りの人にFTMのことをかなりオープンに話せるようになってきた。

おかげで、今は自分らしい生き方を家でも職場でもできている。

本当に幸せなことだと身にしみて感じている。

20代 トランスジェンダー FTM

僕は、大人になって自分の性別の違和感に気付きました。今思えば学生時代からどこか女の子を異性の目で見ている気はあります。ただ、学校でも学んでいないし、知識もありませんでした。周りにもセクシュアルマイノリティの人がいなかったため、どこかあいまいにしてきたのかもしれないと、今なら思います。

今生活していて不便に思うことは、女性としての名前を書かなければならないことです。法律上難しいことだとわかっていますが、手続をするとき、病院で呼ばれるとき、男性の名前でないことがとてもつらいです。

30代 トランスジェンダー FTM

子どもの頃は男らしく、女らしくと言われてきました。大人になると、異性との恋愛の価値観を押しつけられてきました。それぞれに居心地のよいかたちを子どもたちは自分で見つけているはずです。

時々迷ったときに、助けを求められる大人が、一人でも多くいてくれたらなと思います。

20代 レズビアン

中学生や高校生にとって、先生の言葉は、意外と心に残るものです。先生が無意識に生徒を傷つけることのないように、クラスの中にいるかもしれないセクシュアルマイノリティの生徒について知っていてほしいと思います。

20代 クエスチョニング

セクシュアルマイノリティ当事者に限りませんが、学校での先生や友達の影響力はとても大きいと思います。

もし、自分の通っていた学校が、理解のある雰囲気だったら、もっと過ごしやすく、自分の人生も少し変わっていたのかなと考えます。

自分の学校や学級に当事者がいないのではなく、カミングアウトができないか、自分で自分自身が受け入れられないだけです。必ず存在することを忘れないでください！

20代 トランスジェンダー FTM

周囲で男同士でじゃれているとき、差別的な言葉を聞くたびにいたたまれなくなった。自分はここにちゃいけないんだと思った。

高校では文化祭で配色を選ぶ際、心ない言葉に、怒りと悲しみが同時に起こった。

わかってほしい気持ちはあるけれど、簡単にはわかってほしくない。自分のセクシュアリティを打ち明けたとき、気楽に「わかるよ」とか言ってほしくない。「わからなくても、わかろうとしてくれる」それだけで十分。

30代 ゲイ

友達との何気ない会話の中で、「彼氏はいるの？」という質問に対して、私の精一杯の回答は「恋人はいます」でした。

異性愛を前提とした会話に、つらい気持ちになりました。「彼氏」ではなく「恋人」と言ってほしかったです。

30代 レズビアン

小学校の時、男女別にされ、自分が女の子側なんだと思い知らされた。

特別、先生に何か言われることはなかったけど、こんな自分をわかってくれる先生やセクシュアルマイノリティの知識がある先生がいたら、自分の変なのかもしれないと一人で思い悩むことが減ると思う。

40代 トランスジェンダー FTM

子どもの頃は自分の抱えている問題が何かわからず悩んでいましたが、自分の中から出てくる本質的なものに従っていくと、本来の自分で生きられるようになりました。

周りの目が気になっていた時期もありますが、自分は自分を生きていくと決めると楽になりました。周りも本当の自分を受け入れてくれ、それがいつしか自然なこととなっていきます。

自分で自分を受け入れること、それが一番大切なことかもしれません。

30代 アセクシュアル

3 学校でできること

- 研修の機会を確保し，学校全体で取り組みましょう
- 多様性を認め合える環境をつくりましょう
- 児童生徒の学習の場を確保しましょう

(1) 教職員としての姿勢

「教師は最大の教育環境である」と言われるように，教職員が，性の多様性について理解し，一人一人の性的指向，性自認を尊重する姿勢をもつことが大切です。一部の教職員だけの理解や取組でなく，すべての教職員が正しく理解できるように，教職員自らが研修に励むとともに，学校全体で，計画的に研修に取り組みましょう。



教職員自身が，性的マイノリティについて，心ない言動をしたり，笑いやからかいの対象にしたりすることがないようにしましょう。

～研修を受けることで、教職員の意識が変わります～

次は、性的マイノリティをテーマとした研修後の教職員の感想です。研修により、教職員の意識が変わったことがわかります。各学校においても、管理職や人権教育主事等を中心として校内研修を実施し、すべての教職員の理解促進を図り、児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを推進していきましょう。

自分の身近にも悩みを抱えている子どもがいるかもしれない。そんな気持ちをもって子どもたちと接していこうと思う。
(小学校教員)

性的マイノリティの人たちのことを理解し、子どもたちから相談してもらえる存在になりたいと思った。そのためは、私自身の言葉がけがとても重要であることに気付かされた。
(小学校教員)

担任していた生徒からカミングアウトされたことがある。そのときは、何も言えなかったが、今後そういう相談を受けたら、何か違った対応ができると思う。現在も、悩んでいるかもしれない生徒の姿が何人か思い浮かぶので、性的マイノリティについて考える時間をつくっていききたい。
(高等学校教員)

セクシュアルマイノリティの生徒がいるという前提に立って取り組んでいくことが大切であると理解できた。対応できないこともあると思うが、教職員全員で考えていきたい。
(高等学校教員)

以前に担任した児童で「もしかしたら…」と気になった児童がいたが、何もすることができなかった。一人一人が自分らしく過ごせる環境をつくることができるよう、普段何気なく発する言葉や態度も見直していかなければならないと感じた。
(小学校教員)

13人に1人ということで、驚いた。自分の周りにはいないと思い込んでいたが、知らないだけかもしれない。仕事をする上でも、生活する上でも互いに尊重することを考えていきたいと思った。
(中学校教員)

過去に指導した生徒の中に、今思えば、性的マイノリティの生徒がいた。しかし、結局生徒のためには、何一つできなかった。今どうしているのか。「自分らしく生きている」ことを願ってやまない。これから、自分に何ができるか、何をしなければならぬかを考える機会となった。
(中学校教員)



県教育委員会人権教育課では、研修講師の派遣事業をしています。研修の相談については、人権教育課（電話 088-621-3155）まで御連絡ください。

(2) 学校生活での支援

性同一性障がいに係る児童生徒への支援の事例について、文部科学省がまとめたものを掲載しましたので、参考にしてください。

項目	学校における支援の事例
服装	自認する性別の服装や、体操服の着用を認める
髪型	標準より長い髪型を一定の範囲で認める(戸籍上男性)
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める
トイレ	職員トイレ・多目的トイレ等の利用を認める
呼称の工夫	校内文書(通知表を含む)を児童生徒が希望する呼称で記す 自認する性別として名簿上扱う
授業	体育又は保健体育において別メニューを設定する
水泳	上半身が隠れる水着の着用を認める(戸籍上男性) 補習として別日に実施、又はレポート提出で代替する
運動部の活動	自認する性別に係る活動への参加を認める
修学旅行等	1人部屋の使用を認める 入浴時間をずらす

「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」(平成27年4月30日文部科学省通知)より

- 学校においては、性別に違和感をもつ児童生徒への配慮と、他の児童生徒への配慮との均衡を取りながら支援を進める必要があります。
- 性別に違和感をもつ児童生徒が求める支援は、その児童生徒がもつ違和感の強弱等に応じ様々です。その違和感は、成長に従い減ずることも含め、変動があり得るものとされていることから、学校はその時々児童生徒の状況等に応じた支援を行うことが必要です。また、スクールカウンセラーと協働し、きめ細かな支援を行うことも大切です。
- 他の児童生徒や保護者との情報の共有は、性別に違和感をもつ児童生徒や保護者の意向等を十分に確認した上で、個別の実情に応じて進めることが必要です。また、その情報については、個人情報を含むため、慎重に取り扱うとともに厳格に管理しなければなりません。
- 医療機関を受診して性別違和(性同一性障がい)の診断がなされない場合であっても、児童生徒の悩みや不安に寄り添い支援していく観点から、医療機関との相談の状況、児童生徒や保護者の意向を踏まえつつ、支援を行うことは可能です。
- 児童生徒が性的マイノリティであるかどうかは関係なく、性の多様性を受け入れる環境づくりや、相手の嫌がること、傷つけることをしないという態度を養うことが必要です。

〈カミングアウトについて〉

自らの性的指向、性自認を他人に話すことを「カミングアウト」といいます。

カミングアウトには、「自分のことをわかってほしい」という思いが込められています。

相談者は、「どんな反応がかえってくるだろう」「別の人にまで知られないか」等、多くの不安を抱きます。悩み続けてきた人にとっては、カミングアウトすることはとても勇気のいることです。カミングアウトをされたときは、その人の気持ちを受け止めて、じっくりと話を聞きましょう。

カミングアウトは必ずしなければならないものではありません。また、他人から強制されるものでもありません。いつ、誰に、どのように伝えるかは、本人が決めることであり、周囲の人がカミングアウトを強要するようなことは、決してあってはなりません。

◆ 児童生徒からカミングアウトをされたときは、その児童生徒の意思を尊重しながら、まずは悩みや不安を聞くことが重要です。

- ・児童生徒の話を最後までしっかりと聞く。
- ・児童生徒の性を決めつけないようにする。
- ・「話してくれてありがとう」と伝える。
- ・「なぜ伝えてくれたのか」「困っていることはないか」をたずねる。
- ・「ほかに誰が知っているのか」を確認する。
- ・相談機関があることを伝える。



『LGBTってなんだろう？からだの性・こころの性・好きになる性』著者 藪師実芳・笹原千奈未・古堂達也・小川奈津己（合同出版）参考

〈アウティングについて〉

◆ 本人の了解なしに性的指向、性自認について他人に話すことをアウティングといます。

- ・人の尊厳を大きく傷つける行為であることを認識しましょう。
- ・アウティングは絶対してはならないことを児童生徒に話しておきましょう。
- ・相談された内容は大切な個人情報です。慎重に取り扱わなければなりません。教職員間で情報共有することは必要です。

アウティングは厳禁です!!

〈アウティングの例〉



(3) 保護者への理解を促進するために

性的マイノリティの児童生徒が安心して生活できる環境をつくるためには、学校が性の多様性について学ぶ機会をつくり、保護者に性の多様性について正しく理解してもらうことが大切です。

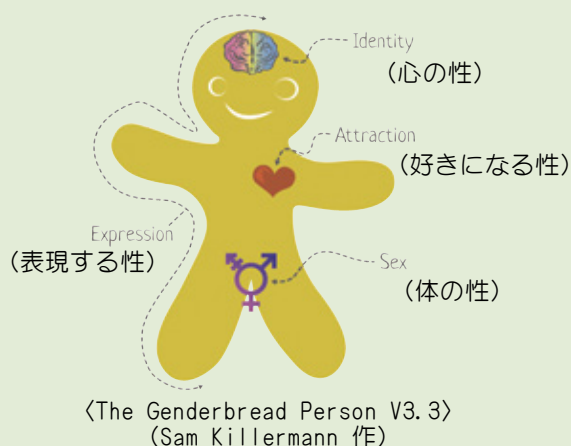
学校の取組としては、PTAの研修会や授業参観、オープンスクール等で、児童生徒の授業と一緒に参加して学習する方法が考えられます。そのほかにも、学校だよりや保健だより、学級通信などの配付物の中で性の多様性についてのコーナーを設けたり、保健委員会や人権委員会などの活動に取り入れて、学習発表会や文化祭で発表したりするなど、様々な方法が考えられます。

相談窓口

◆ 徳島精神保健福祉センター	088-602-8911(代表)
◆ 徳島県中央こども女性相談センター	088-622-2205
◆ 徳島県南部こども女性相談センター	0884-22-7130
◆ 徳島県西部こども女性相談センター	0883-53-3110
◆ 鳴門教育大学心理・教育相談室(相談受付)	088-687-6622
◆ 徳島県立総合教育センター(特別支援・相談課)	088-672-5200

性的マイノリティを理解する方法として様々なものがあります。例えば、The Genderbread Person V3.3 (右図) を使って子どもたちにわかりやすく説明する方法もあります。

授業等では、児童生徒に正しい用語を使うように教えることも大切ですが、「性には多様性がある」ということを認識させることが重要です。



コラム

実際の学校現場では、自分の心の性がよくわからなかったり、誰が好きなのか(同性か異性か)よくわからなかったりする児童生徒も多く存在しています。そのような性を「クエスチョニング」といいます。自分の性別を意識したり、周りからどう見られるか、どのように振る舞うべきかなどに悩んでいたりと、好きな気持ちを感じるけれど、それは友達として好きなのか、それ以上の恋愛感情なのかははっきりしなかったりすることもあります。

どのセクシュアリティに当てはまるのかということばかりに注目するのではなく、本人の思いを大切に、自分らしいあり方で過ごすことができるように、支援することが大切です。

(4) 今日からやってみましょう

普段の生活で、子どもが安心できるメッセージを発信しましょう

ホームルームで話したり学級通信に掲載したりして、「多様な性について、知っているよ」というメッセージを送りましょう。

「男」「女」で色分けしているものを見直してみましょう

名前のラベルの色など、本当に分ける必要があるのかどうか考えてみましょう。

名前の呼び方を考えてみましょう

名前に「さん」を付けて呼んでみましょう。

子どもが相談しやすい先生になりましょう

「うちのクラスに性的マイノリティの子どもはいない」のではなく「気付いていないけど、いる」という意識をもって子どもと接しましょう。

子どもの話をしっかり聞く姿勢を大切にしましょう。

性的マイノリティを笑いの対象にする言動や差別的な言動を見かけたら、見逃さずに指導しましょう

普段の会話を見直してみましょう

「男の子だから…」
「女の子だから…」と決めつけないようにしましょう。

掲示物を見直してみましょう

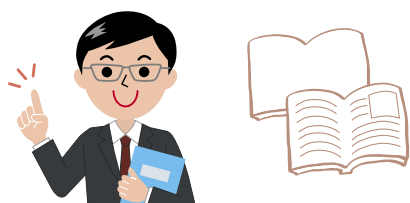
男の子、女の子の役割やイメージを押しついたり決めつけたりするようなポスターなどがないか注意して見てみましょう。

性の多様性に関する本を読みましょう

図書室や保健室、教室に性の多様性に関する本を置きましょう

教職員同士で、多様性を認め合うことについて話し合ってみましょう

多様性を認め合う人権学習をしましょう



4 指導用資料

指導するにあたって

性的マイノリティの人が特別な存在なのではなく、性は多様で一人一人違うということを理解した上で、次の点に留意することが大切です。学習を通して、多様性を認め合い、一人一人が尊重される社会に向けて実践行動できる児童生徒を育成していきましょう。

- このハンドブックを参考に、教職員研修を行うなどして、性の多様性について、教職員が基礎的なことについて学び、共通理解を図りましょう。
- 児童生徒の発達段階や実態に応じた学習展開を考えることが重要です。指導事例等を参考にし、学級の実態に合わせて活用してください。
- どのクラスにも性的マイノリティの子どもがいるという認識をもって授業に臨むことが重要です。学習を展開するにあたっては、すべての子どもが安心できるよう配慮しましょう。
- 学習を進めるにあたって、児童生徒の性について、安易に紙面に書かせたり、発表させたりしないように気を付けましょう。
- 性的マイノリティに関する状況は、これからも変化していくものと考えられます。常に情報を更新し、より効果的な学習になるよう留意しましょう。
- 「ホモ」「おかま」「レズ」などは、差別的な意味合いを含む言葉ですので、絶対に使わないようにしましょう。

コラム

学習を進めるにあたり、児童生徒間でのカミングアウトも考えられます。そこで、児童生徒には、アウティングは絶対にしてはならないこと、自分を信頼して大切なことを話してくれたということを伝え、友達に寄りそって話を聞くようにアドバイスしてください。そして、話してくれた友達が悩んでいた、困っていたりしているようであれば、心配している自分の気持ちを伝えて、信頼できる大人と一緒に相談してみることにも考えられることを伝えましょう。

また、カミングアウトをされた児童生徒が辛い気持ちになったり、悩んだりする場合も考えられます。一人で抱え込まず、個人(カミングアウトをした友達)が特定されない範囲で、ためらわずに信頼できる大人に相談するように話してください。

学習指導事例

(小学校)

- 1 主 題 自分らしさを大切に
- 2 資料名 「かみひこうき」(「ひかり」2年)
- 3 ねらい 「男の子」「女の子」だからという考えで決めることは誤りであることを理解し、ちがいを認め、自分らしさを大切にしていこうとする意欲を高める。
- 4 普遍的な学習のテーマ 個性の尊重

5 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 資料を読み、本時の学習課題をつかむ。	○資料を読み、本時の学習課題をつかませる。
2 しんちゃんの言った言葉について話し合う。	○「女いる」と決めつけることは、誤りであることをおさえる。①
3 自分の好きな色について発表し、「かみひこうき」の色をぬる。	○自分の選んだ色や友達の選んだ色を互いに認め合うことができるようにする。③
4 生活の中で、男女による決めつけがないか考える。	○「男の子だから」「女の子だから」という考えにとらわれず、自分らしさを大切にしていこうとする意欲を高める。②

6 評 価

- ・「男の子」「女の子」だからという考えで決めることは誤りであることが理解できたか。
(知識的側面) ①
- ・男女に関係なく、自分らしさを大切にしていこうという意欲が高まったか。
(価値的・態度的側面) ②
- ・友達の意見をよく聞いて、自分の考えを発表することができたか。
(技能的側面) ③

多様性を認めるために活用できる絵本の例

- 『タンタンタンゴはパパふたり』 『くりちゃんのふしぎながつき』
『王さまと王さま』 『わたしはあかねこ』
『ピンクになっちゃった!』 『くまのトーマスはおんなのこ』
『じぶんをいきるためのるーる。』



学習指導事例

(小学校)

- 1 主 題 いろいろな家族
- 2 資料名 「たまごちゃんたびにでる」(絵本)
- 3 ねらい 様々な形の家族に出会うことを通して、多様な家族のあり方について理解し、同性婚や自分の家族を認め、家族を大切にしようとする意欲を高める。
- 4 普遍的な学習のテーマ 多様性を認め合う

5 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 家族について思い浮かぶことを発表する。	○家族についてのイメージを想起させ、本時の学習の方向付けをする。
2 絵本を読み、出てきた家族について、思ったことを発表する。	○どんな家族が出てきたか発表させ、様々な家族の形があることに気付かせる。 ○同性婚等の家族に対して「おかしい」「こんなの家族じゃない」など否定するような発言が出た場合、一方的に否定せず、なぜそう思ったのかたずね、受容的な雰囲気を受け止めるようにする。③
3 6つの家族に共通していることは何か考える。	○家族の形は違っても、どの家族も、相手を思いやり、大切にしていることや愛情でつながっていることに気付かせる。① ○6つの共通点について理解しにくい児童には、自分の家族をどう思っているのか考えるように促す。
4 自分たちの生活を振り返る。	○自分の家族を含め様々な家族の形があることを認め、自分の家族を大切にしていこうとする意欲を高める。②

6 評 価

- ・家族には様々な形があることを理解することかできたか。 (知識的側面) ①
- ・様々な家族の形があることを認め、自分の家族を大切にしていこうという意欲が高まったか。 (価値的・態度的側面) ②
- ・友達の意見をよく聞き、自分の思いや考えを発表することができたか。 (技能的側面) ③

学習指導事例

(小・中学校)

- 1 主 題 ちがいを認め合う
- 2 資料名 「ちがいのちがいカード」(P18)
- 3 ねらい 「ちがいのちがい」について考えることを通して、性的指向や性自認について理解し、ちがいを認め合って生きていこうとする態度を育てる。
- 4 普遍的な学習のテーマ 自分らしさを大切に
個人人権課題名 性的マイノリティの人権

5 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 「ちがいのちがい」カードを見て、自分の考えをまとめる。	○カードを見て、「あってもよいと思う」「あってはいけないと思う」「どちらともいえない」に分けさせる。 ○なぜそう考えたのか、理由についても考えさせる。
2 それぞれが分けた「ちがいのちがい」カードについてグループで話し合い、発表する。	○男女のちがいについて、決めつけや偏見がないか考えさせる。③ ○友達の意見を否定せず、自分と異なる意見も受け入れられるように促す。 ○性的指向や性自認について、笑いや冷やかしがあつたときは、児童生徒の考えや気持ちを聞きながら、指導する。
3 性的指向や性自認について正しく知る。	○性的指向や性自認について、生きづらさを感じて生きてきた人の思いを紹介し、決めつけや偏見が、性的マイノリティの人を苦しめてきたことに気付かせる。①
4 本時の学習を振り返る。	○ちがいを認め合って生きていこうとする意欲を高める。②

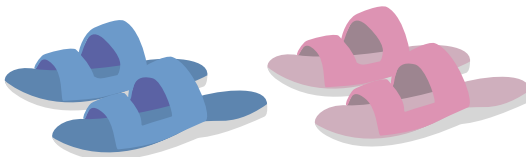
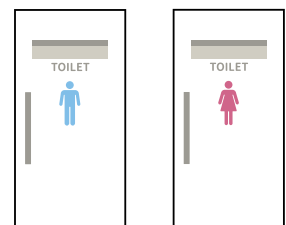
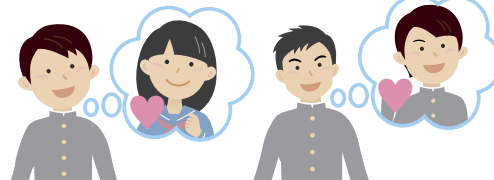
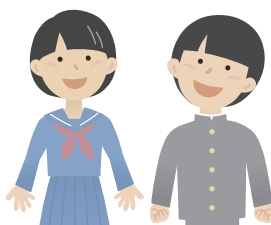
6 評 価

- ・「ちがいのちがい」を考えることを通して、性的指向や性自認について理解することができたか。(知識的側面)①
- ・ちがいを認め合って生きていこうとする意欲が高まったか。(価値的・態度的側面)②
- ・友達の意見を聞いて考えを深めたり、自分の考えを発表したりすることができたか。(技能的側面)③

ちがいのちがいカード

年 組 名前

次の①～④のカードを見て「あってもよいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」に分けてみましょう。また、それぞれの理由を考えてみましょう。

<p>① 学校では、男の子のスリッパは青で、女の子のスリッパはピンクと決められている。</p> 	<p>② 女子トイレは全部個室だが、男子トイレは個室ばかりではない。</p> 
<p>③ 男の子のAさんは、女の子のCさんが好きだが、男の子のBさんは、男の子のDさんが好きである。</p> 	<p>④ 女の子のEさんは女子の制服で学校に行くが、女の子のFさんは男子の制服で学校に行く。</p> 

考 え	番号	考 え た 理 由
あってもよい ちがい		
あってはいけない ちがい		
どちらとも いえない		

学習指導事例

(小・中学校)

1 主 題 自分らしさを大切に

2 ねらい 身の回りで男女によって分けられているものについて考えることを通して、「男だから」「女だから」こうあるべきだと決めつけることは誤りであることを理解し、性別にとらわれずに生活していこうとする態度を育てる。

3 普遍的な学習のテーマ 個性の尊重 共に生きる

4 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 学校の中で、男女の性別で分けられているものは何か話し合う。	○身の回りのことに注意を向け、男女によって分けられているものにどのようなものがあるか、見つけられるようにする。
2 1の話合いで出された内容について、どうして分けられているのかについて考える。	○これまでの社会や文化が求めてきた「男らしさ」(男性像)「女らしさ」(女性像)によって、分けられているものがあることに気付かせる。 ○当たり前のように分けられてきたことを見直すことで、これまでの「男だから」「女だから」こうあるべきだと決めつけることは誤りであることを理解させる。①
3 1の話合いで出された内容について、男女で分けることが本当に必要であるかどうか話し合う。	○必要なもの、必要でないもの、どちらともいえないもののどれにあたるか、グループで話し合わせる。③ ○その人の好みや個性に関わることは、性別で分ける必要がないことに気付かせる。
4 これからの生活について考える。	○性別にとらわれず、自分らしさを大切にするとともに、友達のその人らしさを認めていこうとする意欲を高める。②

5 評 価

- ・「男だから」「女だから」こうあるべきだと決めつけるのは誤りであることを理解することができたか。(知識的側面)①
- ・性別にとらわれず、自分らしさを大切にしていこうとする意欲が高まったか。(価値的・態度的側面)②
- ・友達の意見をよく聞いて、自分の考えを深め、積極的に発表することができたか。(技能的側面)③

学習指導事例

(中・高等学校)

- 1 主 題 人を好きになることについて考えよう
- 2 ねらい 好きになる人は異性、同性、両性など様々であることを理解し、性的指向においても多様性を認め合おうとする態度を育てる。
- 3 普遍的な学習のテーマ 多様性の理解 共に生きる
個人人権課題名 性的指向に関する人権問題

4 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 人を好きになったことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○人を好きになったことがあるかどうかたずね、学習の方向付けを図る。 ○人を好きになったことがある人、人を好きにならなかった人、それぞれの意見を互いに受け入れるようにする。 ○意見が出なかった場合は、同性を好きになることに関わる新聞記事やニュース（同性婚やパートナーシップ条例など）を提示する。
2 同性を好きになることに関わる新聞記事やニュースについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○同性を好きになることに対して、差別的な意見や嘲笑があった場合は、なぜそのような言動をしたか考えを聞きながら指導する。 ○異性だけでなく、同性を好きになる人や、男性、女性両方を好きになる人、恋愛感情をもたない人もいることを知らせる。 ①
3 同性を好きになっている人の思いを知り、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○本資料（P6, 7, 25）等を読み、異性愛を前提とする考えが、同性を好きになっている人を生きづらくさせていることに気付かせる。
4 一人一人が過ごしやすい社会について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○好きになる人についても多様であることを認め合い、自分らしく生きていこうとする意欲を高める。 ②

5 評 価

- ・好きになる人について、異性だけでなく、同性を好きになる人、男性、女性両方好きになる人、恋愛感情をもたない人もいることを理解することができたか。
(知識的側面) ①
- ・性的指向においても、多様性を認め合い、自分らしく生きていこうとする意欲が高まったか。
(価値的・態度的側面) ②

学習指導事例

(中・高等学校)

- 1 主 題 だれもが自分らしく生きられる社会へ
 2 ねらい 性の多様性について理解し、多様性を認め合い、だれもが自分らしく生きることができる社会をつくっていかうとする態度を育てる。

3 指導計画

(1) これまでの学習

○道徳「ちがいのちがい」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間

(2) 現在の学習

○道徳「自分らしく生きよう」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 時間

(3) これからの学習

○総合的な学習の時間

- 「性的マイノリティの人の人権を守る取組について調べよう」・・・・ 1 時間
 ・世界の情勢（同性婚が認められている国、オリンピック憲章等）について
 ・日本の地方自治体の取組（パートナーシップ条例等）について
 ・企業での取組について

4 本時の学習

1/3 時間目・・・「性の多様性について知ろう」

- (1) 目 標 性のあり方は一人一人違うことを理解し、自分らしさや互いのちがいを大切にしていこうとする意欲を高める。

- (2) 普遍的な学習のテーマ 性の多様性
 個人人権課題名 性的マイノリティの人権

(3) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時の学習課題をつかむ。	○性的マイノリティについて知っていることをたずね、学習の方向付けを図る。
2 性の4つの要素について、気付いたことや考えたことを話し合う。 ・体の性 ・心の性 ・表現する性 ・好きになる性	○「体の性」「心の性」「表現する性」「好きになる性」は人によって様々であることを理解させる。① 自分も多様な性の中の一人であることに気付かせる。
3 性的マイノリティについて理解する。	○性的マイノリティの代表的なもの（L G B T）について説明し、性的指向、性自認にかかわらず、自分らしく生きることが大切であることをおさえる。
4 本時の学習で学んだことや感じたことを話し合う。	○自分らしさや互いの違いを大切にしていこうとする意欲を高める。②

(4) 評 価

・性の多様性について理解することができたか。 (知識的側面) ①

・自分らしさや互いのちがいを大切にしていこうという意欲が高まったか。
 (価値的・態度的側面) ②

2/3 時間目・・・「性的マイノリティの人の思いを感じよう」

- (1) 目 標 性的マイノリティに対する理解を深め、自分らしく生きていこうとする意欲を高める。
- (2) 普遍的な学習のテーマ 性の多様性
個人権課題名 性的マイノリティの人権
- (3) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時の学習課題をつかむ。	○前時の学習（性の多様性）を振り返り、本時のめあてをつかませる。
2 本資料（P24～26）を読み、感じたことを話し合う。	○性的指向、性自認について理解させ、性的マイノリティの人のつらさや苦しみに共感させる。 ①③
3 すべての人が自分らしく生きるためには、どのようなことが必要か考える。	○多様性を認め合う気持ちや態度が必要であることに気付かせる。
4 今日の学習で学んだことや感じたことを話し合う。	○自分らしさや互いのちがいを大切にしていこうとする意欲を高める。 ②③

(4) 評 価

- ・性的指向、性自認について理解することができたか。（知識的側面）①
- ・自分らしく生きようとする姿を互いに認め合おうとする意欲が高まったか。（価値的・態度的側面）②
- ・生きづらさを感じている人の気持ちに共感することができたか。（技能的側面）③

3/3 時間目・・・「だれもが生きやすい社会について考えよう」

- (1) 目 標 性的マイノリティの人権について学校生活の中で配慮することを具体的に考え、だれもが安心して自分らしく生きることができる社会をつくりたい意欲を高める。
- (2) 普遍的学習のテーマ 性の多様性
個人権課題名 性的マイノリティの人権
- (3) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 本時の学習課題をつかむ。	○前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかませる。
2 性的マイノリティの人がどのようなことに困っているか考える。	○周りの理解を得られないことが、性的マイノリティの人を生きづらくさせていることに気付かせる。 ①
3 学校生活の中で、どんなことに配慮したらよいかグループで話し合う。	○みんなが安心して過ごすために、どのような工夫をすればよいか、具体的な生活場面から考えさせる。
4 グループで話し合ったことを発表する。	○配慮することについて、各グループの意見を共有する。 ③
5 今日の学習で学んだことや感じたことを話し合う。	○みんなが自分らしく生きていくために自分ができることを実践していこうとする意欲を高める。 ②

(4) 評 価

- ・性的マイノリティの人がどのようなことに困っているか理解することができたか。（知識的側面）①
- ・自分らしく生きようとする姿を互いに認め合おうとする意欲が高まったか。（価値的・態度的側面）②
- ・友達の見解を受け止め、自分の思いや考えを伝えることができたか。（技能的側面）③

性的マイノリティについて考えよう

年 組 名前

1 資料の中の〇〇さんの気持ちを考えてみましょう。

2 あなたが資料の中の〇〇さんから性的マイノリティであることについて打ち明けられたら、どのように接していきたいと思いますか。

3 学習を通して感じたことや考えたことを書きましょう。

学習プログラム資料

○手記やエッセイを読んで感じたことを話し合ってみよう

資料1

誰にも打ち明けられない悩みを抱えたまま、僕は中学生になった。胸も少しずつ膨らみ始め、それまで感じていた心と体の「違和感」は、確信に変わっていく。自分に対する激しい「嫌悪感」を持つようになったのもこの頃である。

小学校までは目白の校舎で家からも近く、学校に行けばすぐに体操服に着替えることができたのでまだよかったが、中学から校舎が神奈川県いいたの生田に変わった。

新宿から小田急線で約40分電車に乗って、読売ランド前駅から校舎まで約15分歩くのだ。その間ずっと僕は他人の視線を気にしていた。誰も僕のことなんて見ていないのはわかっている。それでも誰かにセーラー服姿を笑われているような気がしてならなかった。学ランを着ている他校の男子生徒を見るたびに、「僕もあれを着ているはずなのに……」と思ったものだ。

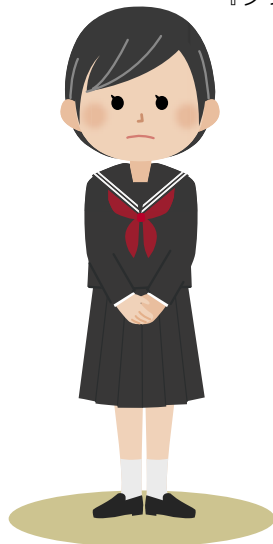
朝家を出てから帰宅するまで「女装」を強いられることになった僕は、片時も苦しさから解放されることがなかった。授業中はもちろん、休み時間も弁当の時間も放課後のひと時も……。

(中略)

僕自身、毎日死にたいと思っていた。

それはフェンシングが楽しくても、彼女ができて決して変わらなかった。一日一日、ただ存在していることが辛い。ベッドに入るたびに「もうこのまま目が覚めなければいいのに……」と願った。

『ダブルハピネス』杉山文野(講談社)より



資料2

ぼくも中学生になり、心にもからだにもさまざまな変化がおきました。社会の決まりごとや慣習かんしゅうみたいなものを身につけていました。しかし、背は高いけど、色白で、運動ができない、なんか、なよなよしている、男らしくない、そんな自分がはずかしく、でも治すに治せない——いままで体験として持っていた「立派な男」であるための条件に自分はすべて反すると実感していました。そして、親の期待に沿えない自分をととても恥はじていたのです。これが第一の「こけた」という体験です。

「男らしく」もないし、勉強もできない。中学校では「タカコ」と呼ばれていじめられながら、クラスでの自分の居場所を考えるようになっていきました。中学校時代に受けたいじめをぼくは先生や親へ伝えることができませんでした。すべては自分が世間せけんで言う「男らしさ」を身につけていないから、「男らしくない」から悪いのだと悩んだのです。

学区を替えて進学した高校時代。仲間の中で居場所いばしょを得るために、ぼくは「勉強する」という道を選び、それを実行したのです。宿題を見せてあげる、テストの情報を教えてあげる、とか。自分の居場所を見つけるために必死になりながら、ぼくは人嫌きらいになりかけていました。しかし一方で、ほのかに男の子への恋愛れんあい感覚かんかくをもっていることに気づきました。これは最悪な事態じたいだと思いました。これが大きく「こけた」と実感した第二の瞬間しゅんかんです。Tくんという男の子を好きになったのです。学校へ行くとき、授業中、そして一緒いっしょに学校から帰るときに、彼かれを見つめながら、ほんとにこの感情はいいことなのかと考えたものです。そのときぼくが取った行為は「棚上げ」でした。同性愛どうせいあいについては思考停止しこうていし。大学に入ってから考えても遅くはないぞと。そのまま、クラスの友人たちとも距離きょりを持ちながら、とりあえず大学進学だけを考えたのです。

ぼくにとっての大きな気づき——それは自分が「男らしくない」と「同性愛者（ゲイ）である」ということでした。世の中では同性愛についてのイメージがとても一面的です。禁断きんだんの愛、親不孝……そんな言葉がたくさん頭をよぎりました。今でもそのときのことははっきり覚えています。もし「こける」こともなく、すんなり女の子を好きになってクラスメイトになじんでいたら、ここまで自分を分析しなかったし、勉強したいと考えることもなかったように思います。でもぼくが同性愛者（ゲイ）であるという発見が、人生を大きく変えたのです。

「自分って何だろう？」という問いへの答えや方向性は、こうした「こけた」経験の中からこそ見出すことができるのかもしれませんが。

『自分をさがそ。多様なセクシュアリティを生きる』杉山貴士(新日本出版社)より

資料3

〈母親の手記〉 ひそかに苦しんだランドセルの赤色

小学校高学年になっても、毎日夕方暗くなるまで男の子たちとつるんで、落とし穴を掘ったり秘密基地を作ったりして遊んでいるような子どもでした。学校から帰るのも男の子たちと一緒に、服や格好は男の子と変わらなくても、ランドセルの色で判断されて、転校生にからかわれたんだそうです。一人だけランドセルの色が赤ですごく目立ったのでしょう。後になって聞いたのですが、いつの間にかランドセルを学校に置いて帰っていたようです。高学年になり、窮屈になったせいだと思い込んでいましたが、「女の子の色」である赤が苦痛だったのかもしれない。おそらく先生もこんな事情があったことには気づいていらっしやらなかったと思います。

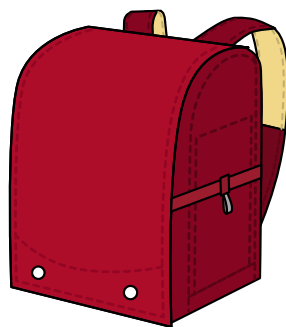
小学校時代、そんな風に本人は男の子と一緒につるんでいましたが、中学生になると女子・男子と別れてゆき、子どもがずっとやっていたスポーツで少し目立つようになると、それを批判的に言われ、とても悔しくて泣いていたのを覚えています。小学生までは受け入れてくれていた男の子たちがいつの間にか離れていき、陰で悪口を言っていると知ったときのショックは大きいものだったと思います。それを相談したり話したりできる先生がいなかったのは残念です。

(FTMの親 50代)

『わが子の声を受け止めて 性的マイノリティの子をもつ父母の手記』

平成28年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 個別施策層のインターネットによるモニタリング調査と教育・検査・臨床現場における予防・支援に関する研究(研究代表者 日高庸晴)より

<http://health-issue.jp/>



5 性の多様性を理解するための用語一覧

性的マイノリティ (セクシュアルマイノリティ) (Sexual Minority)

性的少数者, 性的少数派をさし, 性的指向, 性自認, 性別表現等において「典型」あるいは多数とは異なる性のありようをもつ人たちの総称。LGBTと同義で使われることが多い。省略して「セクマイ」と言うこともある。

性的指向 (Sexual Orientation)

性愛の対象としてみる相手の性別をさす概念。性愛の対象が異性に向かう異性愛者 (ヘテロセクシュアル), 同性に向かう同性愛者 (ホモセクシュアル, 男性同性愛者はゲイ, 女性同性愛者はレズビアン), 男女両方に向かう両性愛者 (バイセクシュアル), 性的指向が異性・同性の枠組みによらない, すべての性に向かう全性愛者 (パンセクシュアル) などに分けられる。

性自認 (Gender Identity : ジェンダーアイデンティティ)

自分自身の心の性が男または女どちらであるかという自己認識。

レズビアン (Lesbian) …女性同性愛者。女性で女性が好きな人。

ゲイ (Gay) …男性同性愛者。男性で男性が好きな人。

バイセクシュアル (Bisexual) …両性愛者。同性も異性も好きな人。

トランスジェンダー (Transgender)

身体と心の性別に違和感がある人。

M T F (Male to Female) 身体的に男性であるが, 性自認 (心) が女性の人。

F T M (Female to Male) 身体的に女性であるが, 性自認 (心) が男性の人。

LGBT

Lesbian (レズビアン), Gay (ゲイ), Bisexual (バイセクシュアル), Transgender (トランスジェンダー) の頭文字をとった総称。さらに, LGBTに, Questioning (クエスチョニング) を加えて, LGBTQ とする場合やその他の多様な性をすべて含めてLGBT+, LGBTs という場合もある。

ソジ (SOGI : Sexual Orientation and Gender Identity)

性的指向と性自認のことで, 国際的に使われる略語表現である。

クエスチョニング (Questioning)

自分の性的指向や性自認が確かでなく迷っている人。自分の性的指向や性自認をどちらかに決められない, わからない, または決めたくない人。

クィア (Queer)

もともとは「不思議な」「風変わりな」などの意味を表す言葉であったが, 現在はセクシュアルマイノリティの人々すべてを表す言葉として用いられている。かつては否定的な意味で使われていたが, 1980年代末頃から, アメリカでセクシュアルマイノリティの人々が, 肯定的に使い始め, 現在は肯定的な意味で用いられるようになった。

アセクシュアル (Asexual)

男性にも女性にも性愛の感情をもたない無性愛者。

ノンセクシュアル (Nonsexual)

恋愛感情はもつが, 性的欲求をもたない人。

パンセクシュアル (Pansexual)

全性愛者。男性, 女性の分類に適合しない人々も含め, すべての性別を愛することができる人。

イクス Xジェンダー

生まれた時に割り当てられた性別は男性若しくは女性であるが、性自認は男性でも女性でもない性別（X：エックス）であると表明する人。性別を男や女に限定したくない、できない、わからないと感じている人。

シスジェンダー (Cisgender)

生まれた時に割り当てられた性別と、自分が社会的、感情的、肉体的に認識している性別とが一致しているジェンダー・アイデンティティ。(例えば、生まれた時の性別が男の人が男であることを自認すれば、シスジェンダーの男性である)

ヘテロセクシュアル (Heterosexual) …異性愛者。異性愛であること。

ストレート (Straight)

異性愛を意味する呼び名のひとつ。同性愛や両性愛などに対応する言葉。

性同一性障害 (G I D : Gender Identity Disorder)

トランスジェンダーの中で、医療機関を受診し、「体の性」と「心の性」が一致しないと診断された人々に対する医学的な疾患・診断名。アメリカ精神医学会では、2013（平成25）年から、診断名をG I D（性同一性障害）からG D（性別違和）へ変更した。それに伴い、日本でも「性同一性障害」から「性別違和」へ診断名を移行しつつある。

性別違和 (G D : Gender Dysphoria)

生物学上の性別と性自認が異なっていることから生じる苦痛、不安、混乱をさす医学的疾患名。「性同一性障害」と診断名が異なるが、同じ症状である。2014（平成26）年、日本精神神経学会は、「性同一性障害」から「性別違和」へ日本語訳の名称を変更した。

アライ (Ally)

セクシュアルマイノリティのコミュニティを支援したり、社会問題や政治問題を支持する性的マイノリティのコミュニティの活動に協力や支援をしている人。

カミングアウト (Coming out)

これまで打ち明けていなかった自らの性的指向・性自認等を他人に自発的に打ち明けること。カムアウト (Come out) ともいう。

アウトティング (Outing)

本人の了解なく、性的指向、性自認等を他人に話すこと。

レインボーカラー (Rainbow Color)

性の多様性を象徴する色（虹色）であり、性的マイノリティのシンボルカラー。性の多様性の象徴として、赤（生命）・橙（癒し）・黄（太陽）・緑（自然）・青（平穏・調和）・紫（精神）の6色で表される。

レインボーフラッグ (Rainbow Flag)

1978（昭和53）年にアメリカで考案され、1979（昭和54）年、サンフランシスコのゲイ・パレードで横断幕が使われ、性の多様性を象徴するものとして使われている。現在、赤・橙・黄・緑・青・紫の6色で表される旗を使用することが多い。



D S D s (Differences of Sex Development : 体の性の様々な発達)

DSDs（ディーエスディーエス）とは、外性器の形状や大きさ・内性器・染色体など、生まれつきの身体の状態が、これが一般的だとされる体のつくりと一部異なる男性・女性の体の状態をいいます。「男性にも様々な体がある・女性にも様々な体がある」ということであり、「男でも女でもない」「中間の性」「男女両方の特徴を兼ね備えている」といった誤解や偏見は、当事者を傷つけることとなります。DSDsは、性別や性自認・性的指向のことではなく、あくまで身体の状態であり、当事者の多くは自分のことを「身体の一部が異なるだけの女性・男性」と認識していて、性的マイノリティだとは思っていません。誤解をもとに、性的マイノリティの一部に加えることには注意が必要です。なお、DSDsをもつ人々にも、そうでない人同様、LGBT等性的マイノリティの人はいます。

※DSDsをもつことと家族のための情報サイト ネクスDSDジャパン <http://www.nexdsd.com>

○性的マイノリティ資料作成委員会

委員長 葛西真記子（鳴門教育大学教授）

委員 上岡 千世（四国大学准教授）

川瀬公美子（メンタルサポートオフィスひといき代表）

紀川 功充（県精神保健福祉センター主査兼係長）

荒木 圭祐（県中央こども女性相談センター係長）

徳山 富子（男女参画・人権課人権啓発推進員）

久米 真里（体育学校安全課指導主事）

横畠 道彦（人権教育課長）

○作成協力者 日高 庸晴（宝塚大学看護学部教授）

中塚 幹也（岡山大学大学院保健学研究科教授）

○事務局 森下 稲子（人権教育課教育推進担当班長）

性の多様性を理解するために
—教職員用ハンドブック—

平成30年3月発行
徳島県教育委員会人権教育課
電話 088-621-3155



みんなが自分らしく生きられる社会へ